



育ちの芽

副園長 奥村 綾

～2学期が始まりました～

夏休み明け、少し気持ちが不安定になったり、寂しくて泣いて登園する子どももいましたが、9月も後半になり、幼稚園生活のリズムを取り戻して活発に遊ぶ姿が見られます。

9月に入ってからもしばらく暑い日が続いたので、園庭では、水遊び、泥んこ遊びが盛んでした。夏休みの経験から、樋に泥水を流し、“流しそうめんごっこ”やビールケースを使って、“バーベキューごっこ”など見立て遊びをしている姿も見られました。

色水遊びでは、小さなペットボトルに色水を入れ、「きれいからお友達にプレゼントする!」という子や、色水の中に、色紙や花びら等を入れ、自分なりに工夫したものを作り楽しんでいました。

1学期から継続して、虫探しに夢中になっている子どもも多く、セミやだんご虫、カナブンやカメムシなど、園庭にいるあらゆる虫を探し出す、虫捕り名人も増えてきました。

メダカやザリガニ、カメなどの世話をする子ども増え、生き物に関心が深まっている様子がうかがえます。

新しくなった図書室を見学した時に、「うきうきタイム中に行きたい!!」という子どもの意見があり、行きたい子が何名か揃った時には、先生と共に3Fへ行き、うきうきタイム中、図書室で時間を過ごす子どももいます。『本の木』に絵本を並べるようになってからは、木登りしようとする子どもなく、お気に入りの本を立てて並べたり、『CAVE』（洞穴）の中では、くつろぎながら絵本を読んでいる姿も見られます。

どんぐりやまつぼっくりを持ってきてくれる子がいたので、コーナーを設定すると、こまやどんぐり迷路などを作ったり、色を塗ったりして、この季節ならではの遊びが発展中です。

～運動会に向けて～

各学年、運動会への取り組みが始まっています。七夕のように、一つのテーマに向かって園全体で進めていく行事とは違い、運動会は、各学年さまざまな競技、演技があり、それぞれねらいも違うことから、運動会すべてを子ども主体で考えることは、内容的にも時間的にも難しいと考え、『子ども主体で考えるもの』『先生と共に作り上げるもの』に分けて取り組んでいます。

一つひとつの競技・演技を内容的に深めて取り組み、運動会当日は、各学年①競技②演技③親子種目の3つのプログラムを行うことになりました。

年少組は、初めての運動会ということで、雰囲気を知るため、みんなで昨年の運動会のDVDを鑑賞しました。見終わると、「あんな風に手をおでこにあてて入場したい!!」「早く運動会したい!!」という声が聞かれました。

かけっこでは、友達と一緒に走る楽しさや、走りきる達成感が味わえるよう、園庭で、思い切り走る機会

をたくさん作ったり、リズムでは、先生扮する“チャオチャオさん”と“パンダパン”から、踊りを教えてもらうことで、子ども達が興味・関心を持って取り組めるようにしています。

喜んでリズムに参加している子どもも多くいますが、なかなか参加しようとしないう子もいます。そんな中、自分達でオリジナルのポーズを考えようと提案すると、一生懸命自分なりのポーズを考え、その事で気持ちが乗り、参加する子どもが増えてきました。

年中組は、毎年背の順で半周をかけっこしていたのですが、今年度は、一緒に走るメンバーを自分たちで決めることにしました。4～5人グループという約束で、「○○ちゃんと走りたい!!」「楽しみ！今から走るん!!」などと言いながら、楽しく決めていました。実際走ってみると、友達と走れた喜びでいっぱいの子、負けて悔しがる子など、さまざまな姿が見られ「次は違う子と走りたい!」という声上がり、かけっこを行うたびにメンバーを替えています。しかし、どのクラスもメンバー替えをする毎に、4～5人に分かれるまで、難航し始めています。そんなときは、クラス全体で話し合い、解決策を自分たちで見つけ出そうと考え、意見を出し合っています。

パラバルーンでは、曲のサビの部分の技を学年全員で決めた後、1番をあか組、2番をあお組、3番をき組が担当し、動画を見たり、パラバルーン遊びを通して、いろいろな技を経験したりして、サビ以外の部分に、どんな技を取り入れたいか考えました。意見が合いすぐに決まるクラスもあれば、意見が分かれ、戸外で曲に合わせて技を行ってから決めるクラスもありました。技が決まると他のクラスに伝え合い、曲の最初から最後まで技が決まりました。戸外で、あか組やあお組が、パラバルーンをしていると、き組の子ども達は廊下に出て、手を挙げてキラキラしたりしゃがんだり、透明のパラバルーンを持って楽しんでいました。各クラス早く順番を覚えて、綺麗に技を見せようと頑張っています。

年長組は、七夕の経験から、運動会を自分たちで作り上げるという意識も高く、各クラス話し合いも盛んに行われています。リレーに関しては、子ども主体で取り組むことになり

『クラスを2チームに分けること』という約束だけ決め、あとは大人の意見を交えない深い話し合いの時間になるよう先生達は口を出さずに、子ども達の様子を見守っています。

ただ、走りたくない子がいるクラスがあり、「走りたくない子は走らなくてもよい」という方向に話が行きそうになったため、『クラス全員参加でリレーは成り立つ』ということは先生から助言しました。1回2回と取り組んでいくうちに、各クラスさまざまな出来事があり、そのたびに子ども達の心が動き、気持ちが強くなったり、落ち込んだり、喜んだり、悔しがったりしている様子がうかがえます。1位になれなかった後の話し合いでは、「毎日筋トレをする」「白旗の子は走って幼稚園に来ること!」「走っている途中で他のクラスの子の気を紛らす!!」など、子どもながらの発想が出てきます。まだまだ自分の気持ちを伝えられない子や、話し合いに積極的に参加しない子、参加したいけどできない子など、それぞれのリレーに対する思いは違いますし、全員が納得できる結果になるとも限りません。また、保護者の皆さんには運動会当日しか見ていただけないため、日々子ども達の気持ちの変化や取り組みの状況など伝わりにくいと思いますが、運動会当日の結果がすべてではなく、取り組んできた過程とそのことで育つ子ども達の心、気持ちの変化などが重要であると考えます。

子ども達だけで取り組むリレーには、幼児期の子どもにとって必要な育ちがたくさんあります。子ども達のさまざまな気持ちの葛藤やこころの成長など、保護者の皆さんも一緒に見守っていただきますようご協力よろしくお願いします。